

# 早稲田大学・法学部

<早稲田大・法学部 傾向と対策>

## 【出題内容】

<早稲田大・法学部 傾向と対策>

□ 2008(04)～2016 まで傾向変化ほほなし:①長文 ②長文 ③文法正誤 ④語法 ⑤条件英作 ⑥自由英作

		2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008
長文読解 ①②	パラグラフ要旨完成	①8	①8 ②7	①7	①7②7	①8②7	①8②7	①8②8	①7②10	①7
	内容真偽 書き出し文完成	①4 ②4/10 物語	①11/1 ②3	①3②6	①4/7+1 ②4	①3+1 ②4/9+1	①3+1 ②4/9+1	①3+1 ②4/10+1	①4+1 ②4/9+1	①4+1 ②4/10
	語義選択 本文表現の意味	①5	①3 ②3	①3②2	①3②2	②2	①2②2	②3	①4	②5
	音声に関する問題	②3	②3	①3	②3	②3	②1	②3	①3	①3
	空所補充問題	②2	①5	②3				②3		
誤文訂正問題		3		3	4	4	3			
空所補充問題(文法・語法)		3	6	3	5	3	5	5	4+5	5+5
空所補充(語彙・イデオロム・語法)		6易	5	6		5	5	5		
条件英作文		3	3	3	3	3	3	3	3	3
自由英作文		1	1	1	1	1	1	1	1	1

2004 年までさかのほっても、全体構成などには現在とあまり差がない。第一志望にしている生徒は、10 年分くらいは最低でも本番までに練習しておくのがよいだろう。

## 長文総合①②

特徴はなんと言っても長文の長さ。2013年は1370語(2題で2370語)もあった。New Treasureなどで普段から長い長文を読むのに慣れていけば問題ないが、予習の段階で全体を一読してから始めるといった学習や段落の要旨をメモするなどの学習をさぼっていると、同じ教材を勉強していても対策になどならないので注意。問題内容は 1)各パラグラフの要旨選択(①の長文) 2)書き出し文完成(内容) 3)内容真偽選択(文章全体の要旨を聞く問題もあり) 4)音声 5)語彙(下線部語義) 6)空所補充 など。

パラグラフリーディングは段落ごとで解いていけるが、内容に関する問題は全体を読まないで判断出来ないものもあるので、「能率的な読解(段落ごとの内容メモ)」などの工夫がないと時間的に追い込まれてしまうだろう。

また、「7つの問題に対して12の選択肢(5つのダミー)」<2014>という意地悪な問題なので慎重に解くことも必要。本文ばかりに目を奪われず、選択肢の英文を丁寧に読めば怖くない。本文の段落メモだけでなく、選択肢も内容をまとめてメモしておくで解答時間は格段に短くて済むはず。

## 誤文訂正問題

問題数は少ないが、「これは聞いてはまずいでしょ？」というレベルのものが出題されることもある。分からなければ、捨てて別の問題に時間を使う方がよい。

- 語法** 短文空所補充問題で文法的に間違っものを5つの選択肢から選ぶタイプ。内容的に不自然でも文法的には「アリ」という悪問もあるが、基本的な問題を落とさないことが肝心。
- 語法(熟語など)** 基本動詞を用いたイテオムや前置詞を中心とした出題。「身体の部位を表す英単語」や「色」をテーマにした問題も今後出題されるかもしれない。難しい年度は慶応大・法の熟語系問題と同様、Vintageレベルではとても対応出来ない。河合塾で偏差値80以上、駿台で70以上あったとしても、対策学習をしていなければ歯が立たないだろう。対策を万全にしたいのなら、基本を学んだあとに口語表現の問題集を(Compass①Cレベル)、あくまで併願や滑り止めで考えているのなら、分からない問題は捨てて構わない。受験生の大半が出来ない問題に時間をかけるほど愚かなことはない。模試とは違って全部が学力を測定するために作問されていると思わないこと。
- 条件英作文** 語法問題に比べて、素直で易しい問題が多い(多少難化しているが、それでも簡単。中央大法や国公立の作文とは比べものにならないほど易しい)。ここでミスなく確実な得点が出来ることが合格への第一関門となるだろう。

## 自由英作文

解答欄から推測される語数は 60words~70words。中1からの定期試験で課してきた自由英作文とほぼ同じ程度。政治経済学部より語数は短く、理由も最低1つと少ないので、上手に1パラグラフにまとめて英文を書く練習をしておこう。自由英作文対策はZ会や河合塾、東進から出ている問題集などをやるのもよいが、普段の学習で読む英文の論理的な構成に注意し、それを真似て書いてみるのもよい。

近年の検定教科書は Globish を意識して論理構成がクリアーな英文を採用していることが多いので参考になるだろう。

## 長文問題出典:

2008年には物語文が出題されているが、基本的には controversial なテーマについて骨太の論説文が出題される。慶応大・経済・商はもちろんだが、慶応大・法などより難しいと考えていいだろう。和訳型の学習も重要だが、大量の英文を段落ごとにまとめる練習をしていないと厳しい。

## 他学部・他大学の問題との相関

パラグラフの内容(要旨)を聞く問題は日本女子大や慶応大・経済など多くの大学で採用されているので早稲田・法オリジナルという訳ではないが、ダミーを含む多くの選択肢から選ばせる形式は珍しい。早稲田・法を受験しない人にとってもパラグラフ・フリーティングの練習教材として、早稲田・法の英文は読解力をつけるのにもってこいである。なお同じ早稲田では国際教養とスポーツ科学で出題される形式なので、スポーツ科学の問題から始めるとよい。

誤文訂正問題は多くの大学で出題されるが、意地の悪さでは他に類を見ないレベルである。上智大の誤文訂正の中にもかなり難しいものはあるので、上智の難問と早稲田・法の問題は同種のものとして練習材料になる。社会科学レベルのものが出題される大学の受験を考えている人にとっては練習材料としてはあまりおみ勧めしない。

基本動詞が作るイテオムや前置詞の熟語については、慶応大でも出題が見られるのは法学部のみ。早稲田でも法のみ(上智を除けば)なので、他大学や他学部を考えている人が出来なくても落胆する必要はない。また、早慶・法を受験者も、他教科の学習が不十分な状態でこの分野の学習に手を出すべきではない(仮に0点でも国社がちゃんとしていれば受かるし、仮に満点取れても国社が出来なければ受からない)。Vintageレベル+ $\alpha$ で対応できるレベルをまずしっかりと身につけるべし!

**条件英作文の攻略が第一！ここと長文読解の正答率を上げることが合格への王道！作文レベルはGMARCHの難しい問題より易しい。**

**自由英作文は早稲田全般それほど難易度は高くない。中1から少しずつ色々な形式を練習してきたので、きちんとやってきた人が慌てるレベルではない。ただし、時間のかけすぎには十分注意すること。**

## 早稲田大・法「英語」 勝利の方程式

- ① まずは条件英作文の攻略を！ 易しいことを丁寧にやれる学習が必要！
- ② 自由英作文では出来るだけミスをしない答案を心がける！ あまり時間をかけすぎないこと！
- ③ 受験生平均が高くないでも、慶應と違って合格点は高いので注意！  
  
＜合格最低点＞ 2012: 59.3% 2013:60.0% 2014:59.5%  
  
＜受験者平均＞ 2012: 46.1% 2013:48.7% 2014:38.1%
- ④ 長文読解ではパラグラフ要旨選択問題の攻略がカギ！
- ⑤ 発音・アクセントの問題は標準レベル。3問出題されるので満点を取りたい。
- ⑥ 受験生レベルは慶應法と並び私大最高峰。東大・一橋の滑り止めとする受験生が多い。ただし  
  
相当な高得点を取る生徒は入学しないので、のまれないことが肝心。
- ⑦ 法に限らず、早稲田は3教科バランスが勝負！ 英語だけ得意では勝負出来ない！
- ⑧ 理想的な解答時間は①②50分③④⑤10分⑥5分⑦10～15分で75(80)分+見直し10(15)分。
- ⑨ 英語が得意なら7割以上、苦手でも6割前後は欲しい。